

16<sup>th</sup>, October, 2022

# PBL演習8班最終発表

新型コロナウイルス禍における  
学生の生活様式変化に関する調査

丹路 遥斗 燕 志豪 松本 慎喜 若林 功樹  
指導教官: 谷口綾子

2020年世界的に新型コロナウイルスが流行



➤対面活動の制限など生活様式が変化

## 大学生

オンライン授業の拡大や対面でのサークル活動の自粛など大きく変化



学生生活の質、主観的な生活の充実度に直結

新たな大学生生活の在り方を考える上で検討すべき

## ■ 先行研究①

### 戴・浦田 (2021) 「キャンパスライフレス」が新入生に与える心理的影響

通常のキャンパス生活(対面授業や部活動など)ができない状況を「キャンパスライフレス」と定義し、それに伴う影響を「学習面」(オンライン授業など)、「生活面」(クラブ、サークル活動など)、「対人面」(友人関係など)に着目して調査。

分析結果に基づいて、学生の心理状態について考察

## 結果

① オンライン授業に苦手意識を持つ学生とそうでない学生、及び、オンライン授業全体を通して満足している学生とそうでない学生がそれぞれ約半数。

→ ・ オンライン授業が必ずしも学生の心理にマイナスに働くとは限らない。

・ 対面授業よりも学習に対する生徒の受け止め方に差が生じやすい。

② 対人面において、オンライン上の関係のほうが対面よりもストレスがかかる。

→ 「キャンパスライフレス」な状況は、学生の対人面に関する心理にマイナスに働いている。

## ■ 先行研究②

### 内田・黒澤 (2021) コロナ禍に入学した大学一年生とオンライン授業

コロナの影響により、オンライン授業の増加、交友関係の減少が問題視。一方、オンライン授業は効果的に活用出来れば、より個人に適合した教育を提供できると期待。

全面オンライン授業下の大学一年生における身体的健康、精神的健康について定量的に調査

## 結果

① オンライン授業によるコンピューターの長時間使用、テクノ不安、結果的にそれがテクノ依存で示されているような人間関係の希薄化、孤独感や鬱状態と関連

② オンライン授業の希望度合いは、ひきこもり願望や通学時間の長さとの正の相関を示し VDT 症状や精神的健康との負の相関で、約 40%の学生がオンラインを希望

\* VDT症候群とはコンピューターやテレビ画面、携帯電話の液晶画面などのディスプレイを集中して長時間見続けることで発症する、疲れ目や身体の不調のこと

# 研究背景

## ■ 既存研究

授業形態、サークル活動の変化、心理状態を調査  
コロナ流行後の主観的な調査



通学形式、外出頻度、起床時間、趣味など

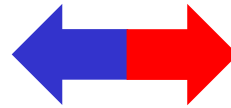
■ 学生生活を広範に網羅する形式で行動指標を用いて調査する研究は見当たらない。

■ コロナ前のキャンパスライフを知っている学生と知らない学生でのコロナに対するリスク認知の差異、生活の質の差異というのは十分に検討されていない。

# リサーチクエスト・仮説

## コロナ流行前

新型コロナウイルス流行前の  
キャンパスライフを知っている学生



## コロナ禍

コロナ禍に入学した学生



大学生活に対する認識の違いを行動指標を用いて評価

- コロナ禍で授業形態や学生活動形態が大きく変化
- 都内の大学と比べ筑波大学では対面授業の再開が遅れている



新型コロナウイルスの蔓延がキャンパス生活に与える影響を調査

Withコロナ時代での大学生活の在り方を提言

## □行動指標の分類

### ➤ 大学生生活環境

通学形式、外出頻度、起床時間、趣味などの項目をコロナ流行前後における個人の生活環境変化の要素として考案

### ➤ 学習面

コロナ禍で対面授業の減少に伴い、オンライン・オンデマンド授業が増加  
→授業に取り組む姿勢の変化、学力面での不安などを調査

### ➤ 対人関係

コロナ禍で対面でのキャンパスライフが制限されている  
→友人との交際頻度の変化、コロナ禍に入学した学生にとって障害となるか、逆に友人関係に対するストレス軽減に繋がるのかなどを調査



## □リサーチクエスト

- ✓ コロナ禍で入学した学生の大学生活への満足度が低い？
- ✓ コロナ以前の大学生活を知っている学生は、コロナ禍の大学生活満足度低下？

## □仮説

1. コロナに対する恐怖心が強いとオンライン学習やオンラインでの人との関わりに積極的である
2. コロナ前後で交友関係は狭まっている
3. コロナ禍での学習に対する態度は二分される  
→オンライン授業では授業態度のばらつき(真面目度)が大きくなる
4. コロナ禍は恋愛を目的とした交際人数が減少する
5. コロナ禍では交友関係に対する不安やストレスが増える



## ■アンケートにより調査を行う

### ➤対象者

- 筑波大学生（学類2年生から大学院1年生）
- 100名以上の回収を目標とする

### ➤期間

- 2022年7月,8月,9月

### ➤使用ツール

- MSフォームズ（スノーボールサンプリング）

B1は入学して間もないためバイアスを考慮し除外

他大からの編入生は除外

## ■アンケート設計

コロナ前の頃を思い出す

現在の内容

現在の内容



B4, M1



B2, B3

# アンケートの流れ

## ■アンケート内容

➤ アンケートは、大きく 5 項目に分かれています。

### 1. コロナに対するリスク認知

例：新型コロナウイルス(COVID19)は恐ろしいと思う（5件法）

### 2. コロナ禍前後の生活環境(コロナ前はB4,M1のみ)

交通手段, 居住地, 友人数, 恋人数などを質問

### 3. コロナ禍の学習環境

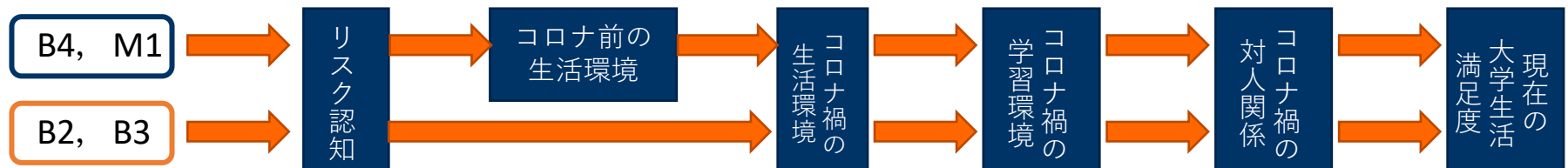
例：オンライン授業に苦手意識がある（5件法）

### 4. コロナ禍の対人関係

例：キャンパスライフにおいて友達は大切だと思う（5件法）

### 5. 現在の大学生生活満足度

例：これまで過ごした大学生生活の満足度をお聞かせください。  
(10段階評価)



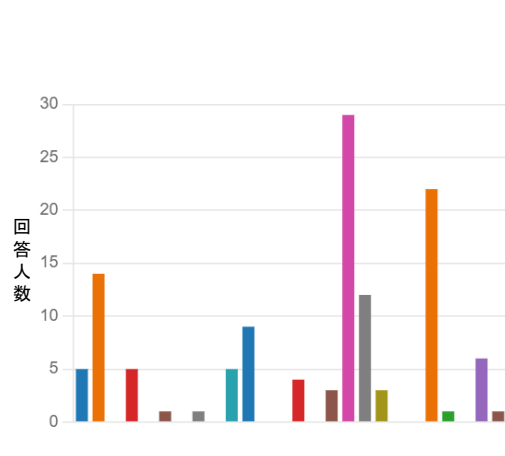
# アンケートの実施

## ■アンケート調査の実施

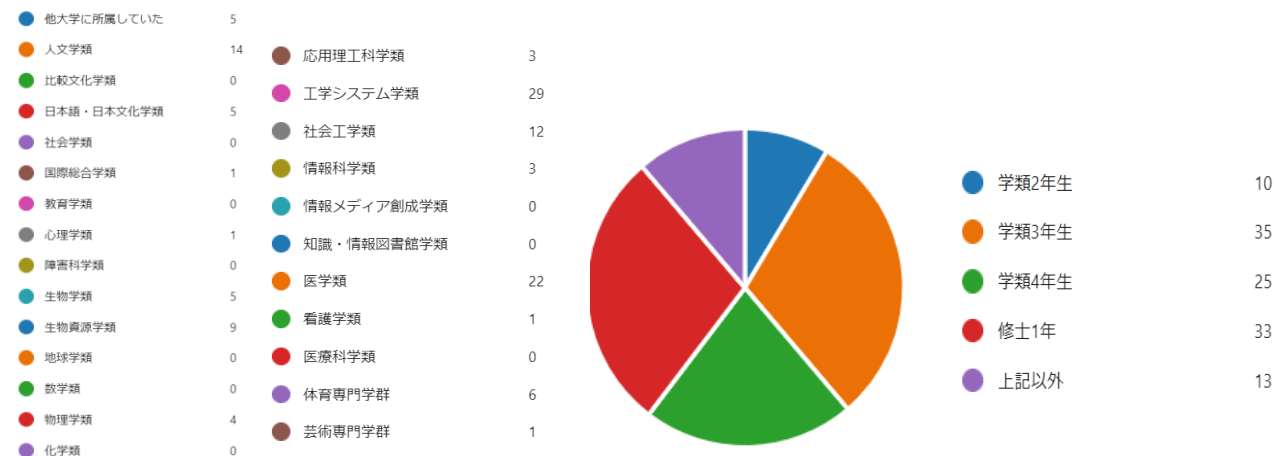
- ▶7~9月の期間, MSフォームのURLを班員の友人や知人を介して配布. 同意が得られた人に回答を行って頂いた.

## ■アンケート回収数

- ▶アンケート回収数121名(有効回答数:108件)
- ▶単純集計の結果の一部を以下図に示す.



回答者の所属学類(N=121)



回答者の学年の割合(N=121)

# 仮説1の結果

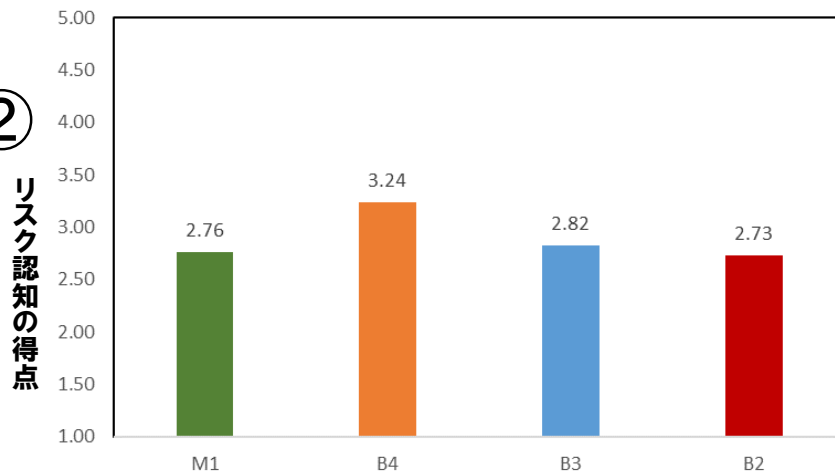
12

コロナに対する恐怖心が強いとオンライン学習やオンラインでの人との関わりに積極的である

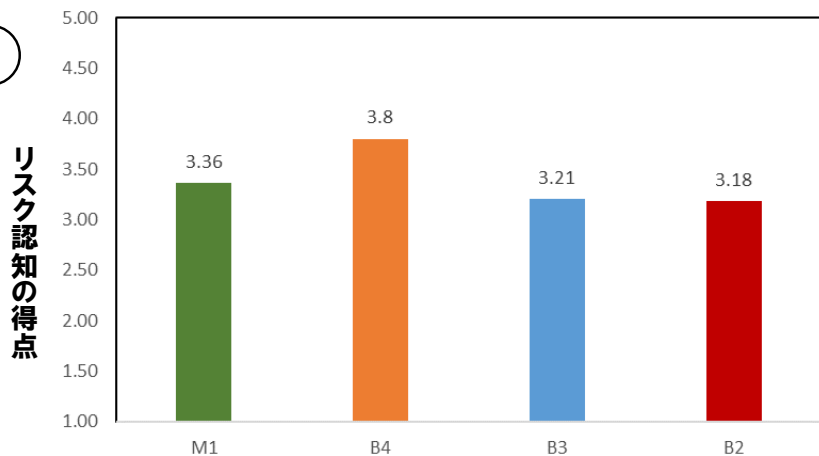
## ■新型コロナウイルスの認識についての調査

- ①新型コロナウイルスは恐ろしいと思う
- ②新型コロナウイルスのことをよく知らない
- ③新型コロナウイルスはコントロールできないと思う

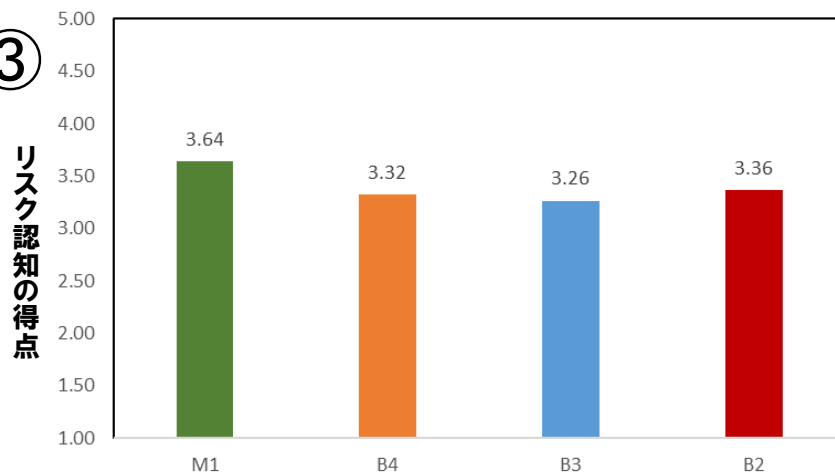
②



①



③



# 仮説1の結果

13

コロナに対する恐怖心が強いとオンライン学習やオンラインでの人との関わりに積極的である

## ✓学習面に関する質問

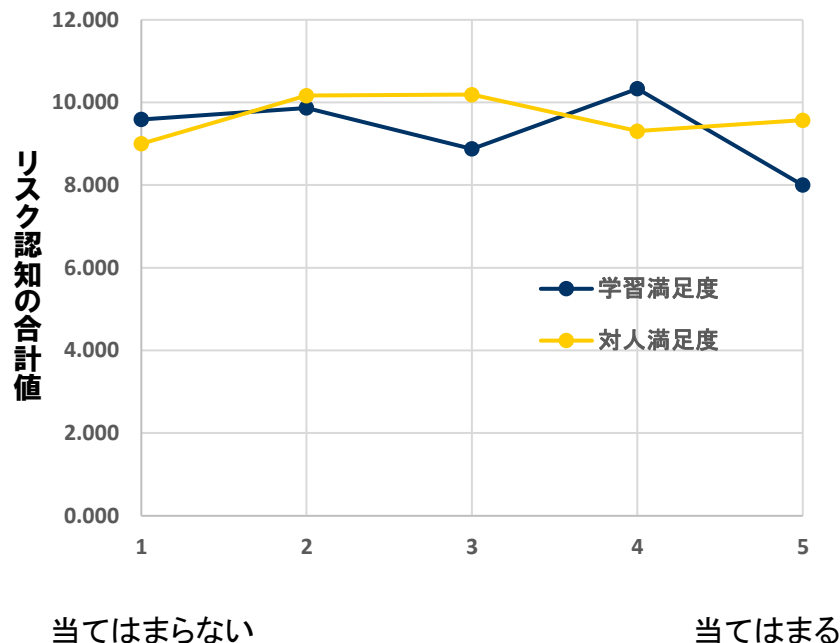
全体的に振り返ってオンライン授業に満足している

回答数		リスク認知合計値平均(0~15)
28	当てはまらない	9.590
39	あまり当てはまらない	9.867
22	どちらでもない	8.875
12	やや当てはまる	10.333
24	当てはまる	8.000

## ✓対人面に関する質問

友人との関わりはオンラインでも十分である

回答数		リスク認知合計値平均(0~15)
1	当てはまらない	9.000
3	あまり当てはまらない	10.167
8	どちらでもない	10.190
31	やや当てはまる	9.308
61	当てはまる	9.571



コロナに対するリスク認知とオンライン学習やオンライン対人交流への積極度は相関がみられなかった

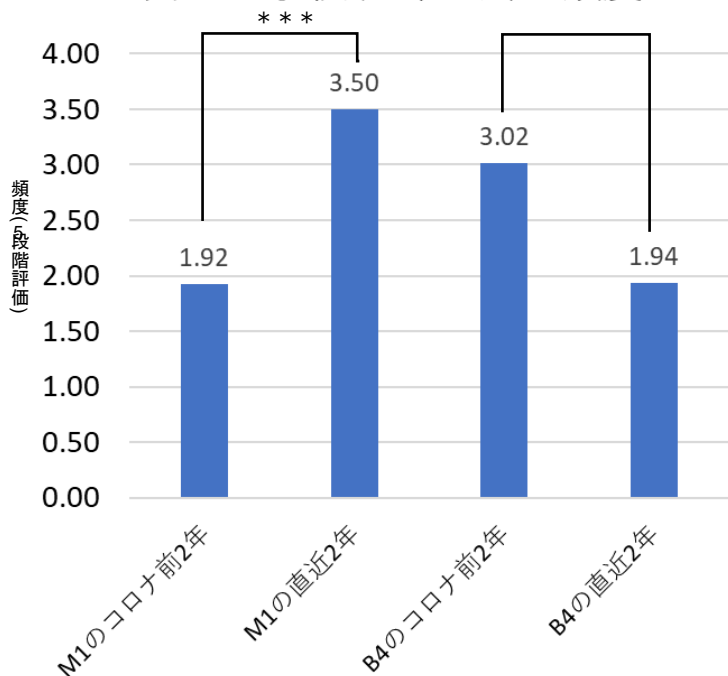
→オンライン授業・オンライン交流では満足できない？

# 仮説2の結果

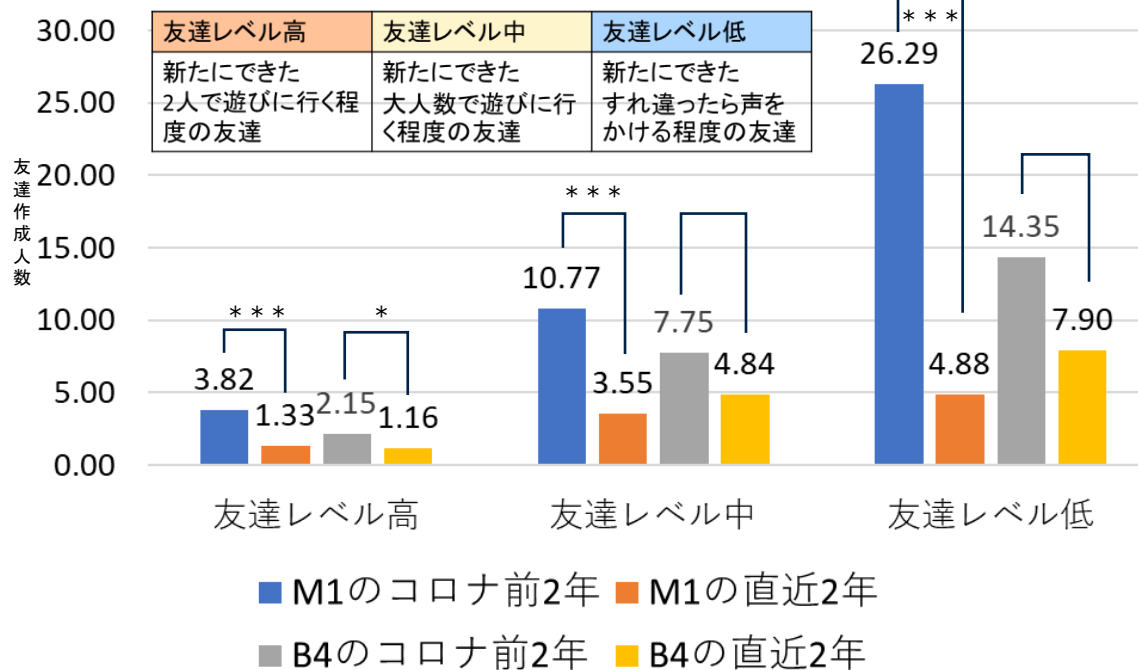
14

## コロナ前後で交友関係は狭まっている

### 友人と学校以外で会う頻度



### コロナ前後のレベル別友達作成人数平均



\*p<0.1 \*\* p<0.05 \*\*\* p<0.01

友達作成人数はB4,M1共にコロナ前後で減少  
友達レベルが低いほど減少割合が大きい  
→友人関係の希薄化が原因か

# 仮説3の結果

15

## オンライン授業ではコロナ禍での学習に対する態度は二分される

- ⑪ 授業に出る気がしないことがある。
- ⑫ 朝寝坊などで授業に遅れることがある。
- ⑬ なんとなく授業をサボることがある
- ⑭ 大学からの連絡事項を見落としてしまうことがある。
- ⑮ 授業の課題が遅れたり、出さなかったりすることがある。
- ⑯ 授業中に居眠りをしてしまうことがある。

### B2とB3の結果(45名)

平均	標準偏差	相関係数						
			⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
3.89	1.18	⑪	1					
3.09	1.53	⑫	0.572	1				
2.51	1.59	⑬	0.53	0.603	1			
3.78	1.17	⑭	0.449	0.469	0.468	1		
2.98	1.5	⑮	0.364	0.466	0.51	0.706	1	
3.24	1.46	⑯	0.222	0.466	0.435	0.485	0.509	1

### B4とM1の結果(58名)

平均	標準偏差	相関係数						
			⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
3.83	1.08	⑪	1					
2.71	1.47	⑫	0.443	1				
2.74	1.53	⑬	0.337	0.602	1			
3.66	1.35	⑭	0.184	0.262	0.326	1		
2.71	1.5	⑮	0.255	0.414	0.457	0.506	1	
3.36	1.51	⑯	0.281	0.328	0.409	0.325	0.353	1

オンライン授業での学習態度に関する質問はすべての項目において  
正の相関が見られた

# 仮説3の結果

16

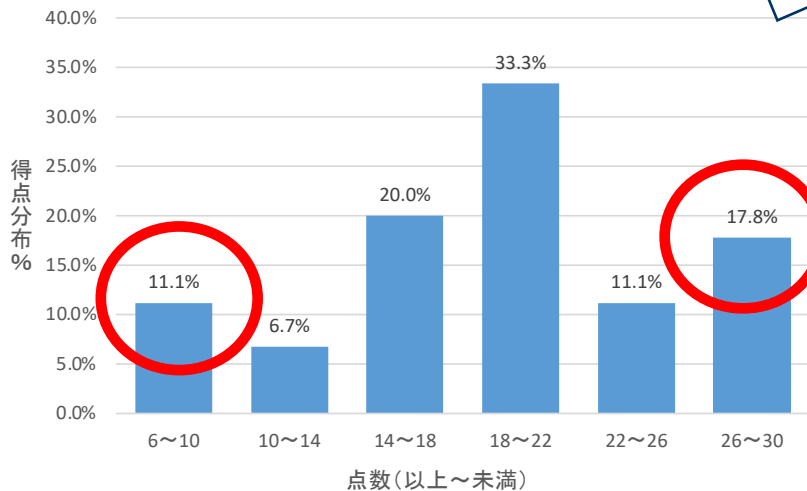
## オンライン授業ではコロナ禍での学習に対する態度は二分される

各生徒の総得点を算出(6~30点、意識が低い生徒ほど得点が高くなる)

### B2とB3の結果

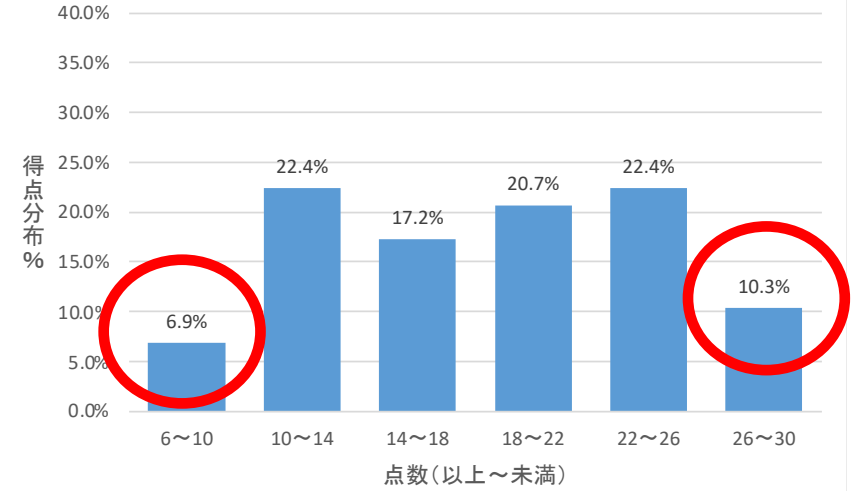
データ数	45
平均得点	19.5
標準偏差	6.38

最低得点群、最高得点群でのB2,B3の割合が高い



### B4とM1の結果

データ数	58
平均得点	19.0
標準偏差	5.84



P=0.69(等分散を仮定した2標本によるt検定)

B2, B3は、より真面目な生徒と不真面目な生徒に二分化されている  
オンライン授業が一定数の生徒の学習意欲を下げる危険性



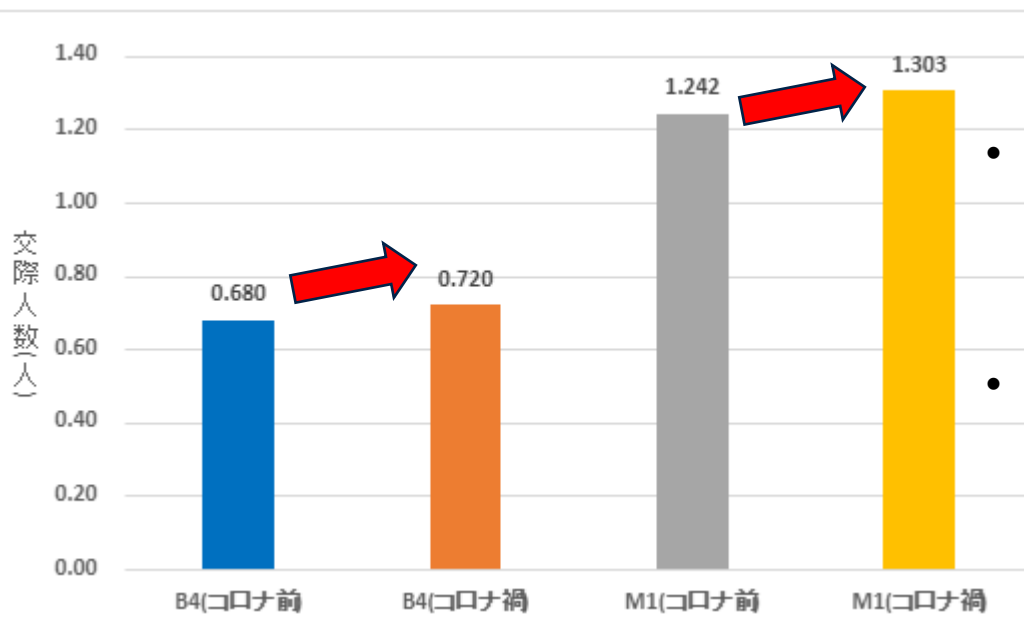
# 仮説4の結果

17

## コロナ禍は恋愛を目的とした交際人数が減少する

大学入学後、恋愛を目的とした交際人数について各学年の平均値の結果

B2	B3	B4(コロナ前)	B4(直近)	M1(コロナ前)	M1(直近)
0.938	0.886	0.680	0.720	1.242	1.303



- 仮説ではコロナで恋愛を目的とした交際人数が減少と想定していたが実際ではB4とM1の交際人数が増えた
- 対面で会う機会は減りマッチングアプリへの使用の増加が考えられる

4人以上の場面が減った代わりに1対1の場面が増えたことが考えられる

対面よりオンライン上で話しかけがしやすくなったこと

友達との関わりが減り、寂しい人が増えた？恋愛目的なら会うことが許される風潮？

# 仮説5の結果

18

## コロナ禍では交友関係に対する不安やストレスが増える

- ①キャンパスライフにおいて友達は大抵だと思ふ ②キャンパスライフにおいて先輩、後輩との関わりは大抵であると思ふ  
③友達作りは対面で行いたい ④オンライン上での人間関係はストレスが少ない  
⑤オンライン上での人間関係は深まらないと思ふ ⑥友達との関わりはオンラインでも十分だと思ふ **質問反転**

### B2とB3の結果(45名)

平均	標準偏差		相関係数						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
4.62	0.61	①	1.00						
4.49	0.98	②	0.31	1.00					
4.53	0.86	③	0.68	0.38	1.00				
2.51	1.22	④	-0.19	0.00	-0.11	1.00			
4.11	1.08	⑤	0.50	0.22	0.68	-0.06	1.00		
1.56	0.69	⑥	-0.56	-0.44	-0.73	0.35	-0.53	1.00	

### B4とM1の結果(58名)

平均	標準偏差		相関係数						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
4.79	0.48	①	1.00						
4.69	0.59	②	0.80	1.00					
4.67	0.68	③	0.74	0.69	1.00				
2.78	1.19	④	-0.11	-0.15	-0.22	1.00			
3.97	0.91	⑤	0.38	0.40	0.34	-0.21	1.00		
1.59	0.93	⑥	-0.27	-0.26	-0.24	0.51	-0.38	1.00	

- オンライン上での人間関係はストレスが少ないと思ふ人ほど友達との関わりはオンラインで十分と思ふ傾向にある

# 仮説5の結果

19

## コロナ禍では交友関係に対する不安やストレスが増える

- ①キャンパスライフにおいて友達大切なと思う ②キャンパスライフにおいて先輩、後輩との関わりは大切であると思う  
 ③友達作りは対面で行いたい ④オンライン上での人間関係はストレスが少ない  
 ⑤オンライン上での人間関係は深まらないと思う ⑥友達との関わりはオンラインでも十分だと思う

質問逆転

### B2とB3の結果(45名)

平均	標準偏差		相関係数						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
4.62	0.61	①	1.00						
4.49	0.98	②	0.31	1.00					
4.53	0.86	③	0.68	0.38	1.00				
2.51	1.22	④	-0.19	0.00	-0.11	1.00			
4.11	1.08	⑤	0.50	0.22	0.68	-0.06	1.00		
1.56	0.69	⑥	-0.56	-0.44	-0.73	0.35	-0.53	1.00	

キャンパスライフにおいて友達大切なと思うほど先輩、後輩との関わりは大切であると思うことに関してB2、B3とB4、M1では大きく違った

### B4とM1の結果(58名)

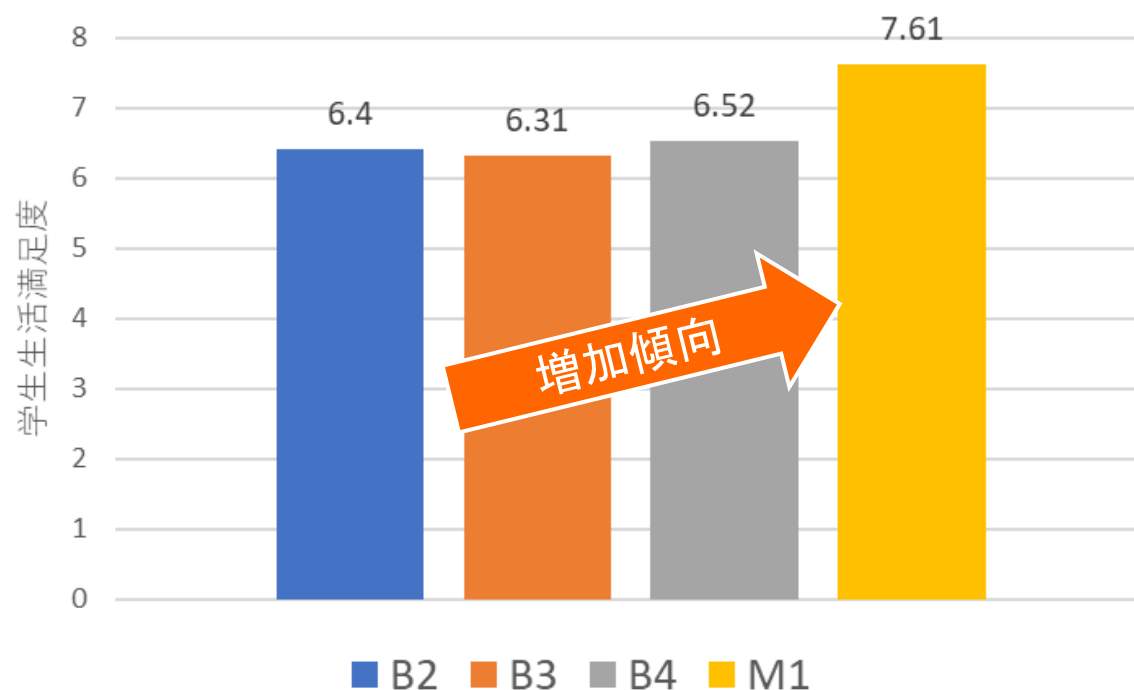
平均	標準偏差		相関係数						
			①	②	③	④	⑤	⑥	
4.79	0.48	①	1.00						
4.69	0.59	②	0.80	1.00					
4.67	0.68	③	0.74	0.69	1.00				
2.78	1.19	④	-0.11	-0.15	-0.22	1.00			
3.97	0.91	⑤	0.38	0.40	0.34	-0.21	1.00		
1.59	0.93	⑥	-0.27	-0.26	-0.24	0.51	-0.38	1.00	

- B2、B3とB4、M1では大きく違った理由としてコロナ前のキャンパスライフを体験しているかに関係していると考えられる

# リサーチ・クエスチョン1の結果

✓ コロナ禍で入学した学生の大学生活への満足度が低い？

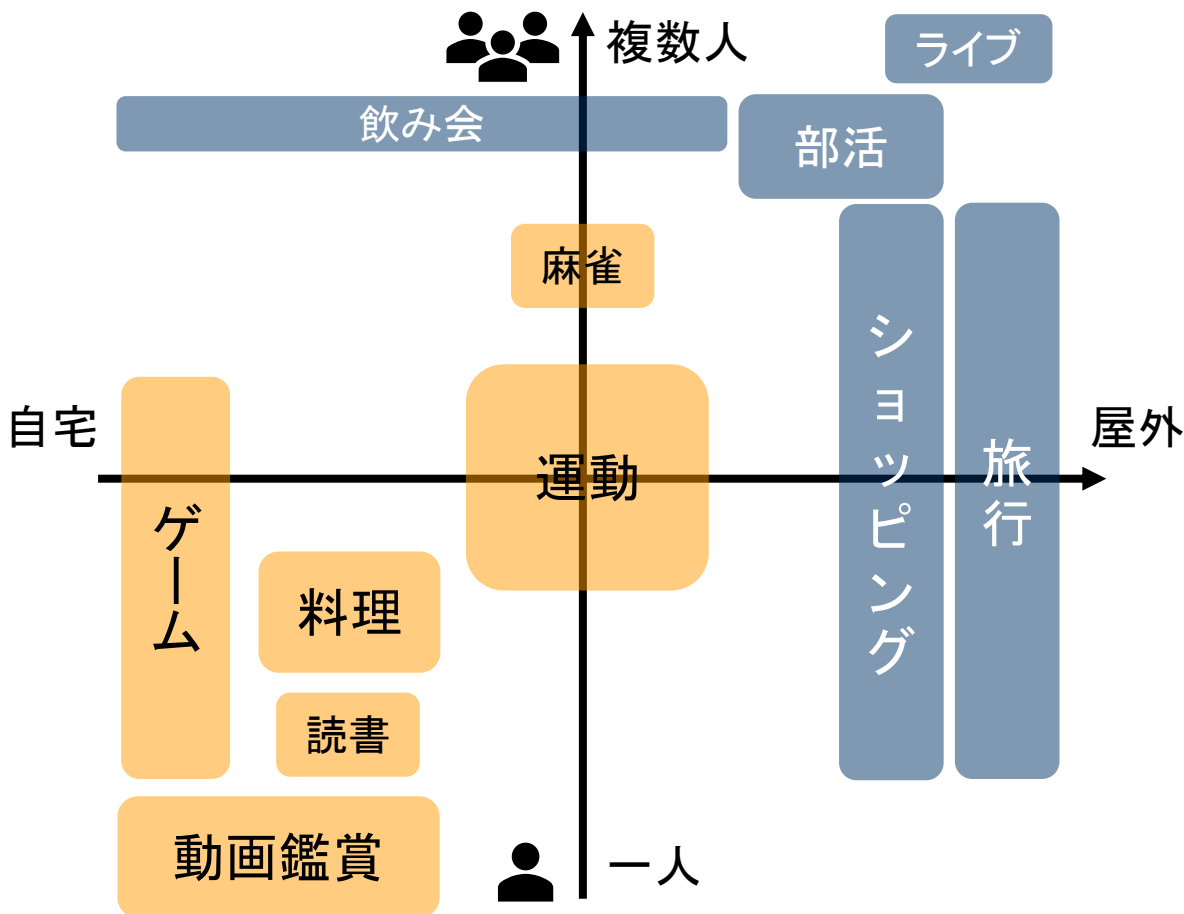
大学生活に対しての満足度調査結果(学年別)



満足度は学年が上がるにつれて増加傾向にある

# 趣味の変化

21



コロナ禍による趣味の性質の変化

	内容	票数
1	旅行	9
2	ショッピング, 街歩き	7
3	部活, サークル活動	7

コロナ禍でしなくなった趣味

	内容	票数
1	スポーツ, 運動	14
2	ゲーム	9
3	動画鑑賞	8
3	料理	8

コロナ禍で新たに始めた趣味

コロナ禍を通して外出系から室内系, 複数人から個人に変化  
一方, 趣味は多様化

# 趣味の変化

22

## コロナ禍でしなくなった趣味

旅行  
部活動, 運動  
飲み会  
サウナ  
ゲッターリング  
ゲーム  
料理  
読書  
動画鑑賞

麻雀  
ライブ  
クラブ  
勉強  
ショッピングや街歩き

複数人  
一人

コロナ禍による趣味の性質の変化

## コロナ禍で新たに始めた趣味

株式投資  
料理  
芸能人  
旅行  
カラオケ  
サッカー観戦  
園芸  
3Dプリント

ゲーム  
麻雀  
競馬  
生け花  
パズル  
プログラミング  
漫画  
ルービックキューブ  
料理

動画鑑賞  
読書  
デザイン  
音楽, 楽器  
ドライブ  
ハンドメイド  
写真  
スポーツ, 運動

票数  
9  
7  
7  
票数  
14  
9  
8  
8

コロナ禍で新たに始めた趣味

コロナ禍を通して外出系から室内系, 複数人から個人に変化  
一方, 趣味は多様化

## 新型コロナウイルスの蔓延がキャンパス生活に与える影響を調査した

コロナに対するリスク認知と  
オンライン学習や対人交流  
への積極度は相関がみられ  
なかった

コロナ前後で各学年ともに  
交友関係は狭まっている

オンライン授業が一定数の生徒  
の学習意欲を下げる危険性

B4とM1の交際人数が逆  
に増えた

交流がオンラインにな  
ると不安やストレスを  
持つ人が多い

## 今後の課題

1. 対象を他の学校, 年齢に拡大し, より一般的な知見を得る必要性
2. 分析に利用しなかった設問項目の精査
3. 大学満足度と学年の関係, コロナ前後の恋愛人数など, 一定の傾向がみられる結果の考察が不十分

## まとめ

1. 調査により, コロナ禍による学生の生活様式への影響の一端を見た
2. 得られた知見を今後起こりうる次なるパンデミックへの備えやその際の学校運営に生かすことができるのではないか



1. 戴宇熙,浦田悠,村上正行;「キャンパスライフレス」が新入生に与える心理的影響,日本教育工学会研究報告集,2021年,2021巻1号p.34-40
2. 内田知宏,黒澤泰;コロナ禍に入学した大学一年生とオンライン授業,心理学研究原著論文,2021年

ありがとうございました。